

## 東運寺 東京都杉並区方南 2-5-4

本堂屋根に大釜をのせ、釜寺と呼ばれる当寺の由来は、開山一安が安寿と厨子王の守り本尊といわれる「身代り地蔵」をもって当地に来たり、大地主鈴木伊兵衛がこれに帰依して念仏堂を建立し、厨子王を釜ゆでから救ったという地蔵の伝説に因んで屋根に釜を置いたと伝える。元禄2年（1689）の刻銘のある半鐘や江戸初・中期の庚申塔・石仏などが保存されています。また、山門はもと田村右京太夫江戸屋敷の脇門（浅野内匠頭が通ったと伝えられる）であったのが、そのゆかりの人々の冥福を祈って寄進保存されたものです。そのほか、中国山東省の孔子家より頂いた銘木「楷樹」が数株植えてあるのも珍しいです。なお、大正11年、下谷入谷町にあった東運寺（慶安4年1651年茂山上人開山）と合併し、改めて念仏山東運寺となりました。（杉並区教育委員会掲示より）



教育委員会説明版

田村右京太夫江戸屋敷の脇門



江戸初・中期の庚申塔・石仏



厨子王を釜ゆでから救ったという地蔵の伝説に因んで屋根にある釜



孔子家より頂いた銘木「楷樹」



浅野内匠頭が通った門